

私立 大阪経済法科大学

取組名称 不況下における学生の個別ニーズに対応した就職支援体制の構築

取組担当者 学長補佐・経済学部教授・学生就職指導部長 能塚 正義

1. 本学の概要

大阪経済法科大学は、1971(昭和46)年4月に設立され、設立当初から今日まで経済学部と法学部の2学部からなる社会科学系大学である。

現在は、八尾市にある楽音寺キャンパスに経済学部、法学部の計3,121名の学生が学んでいる。楽音寺キャンパス以外に、富田林グラウンド、阪南キャンパスセミナーハウス、琵琶湖セミナーハウス、そして、東京に東京麻布台セミナーハウスを有している。

本学では、「経済と法律が社会の両輪であり、この二つの学問を修めることによって無類の人格を形成することができる」という建学の理念に基づき、開学以来、「実践の中から真理を探究する実学の精神をもった人材」の育成を目指し、学部を超えて「経済」「法律」の専門科目をともに結びつけて学ぶことができる「経法相互乗り入れ」制度を実施している。

経済学部では、グローバル化する現代社会の諸課題に創造的に対応できる人材の育成を、法学部では正義と公平を旨とするリーガルマインドをもって現代社会の諸課題に積極的に取り組む市民の育成を目指すとともに「高度専門職業人及び幅広い職業人」育成を目指して教育研究活動を行っている。

具体的には第一に、難関国家資格試験や公務員採用試験、法科大学院入試等の合格という高い目標を目指す学生をバックアップする多彩な課外講座、資格講座を開講することで、「高度専門職業人」として社会の第一線で活躍できる人材の育成を目指している。

第二に、「幅広い職業人」の育成に向け、経済学と法学の専攻とは別に、国際教養副専攻、情報副専攻、環境副専攻という3つの副専攻制度を導入し、あわせて各種資格講座を開講するとともに、キャリア教育、そして就職支援体制の整備・充実にも力を注いできた。

2. 本取組の概要

2008(平成20)年の米国での金融危機に端を発した

急激な景気悪化と今後の景気回復の不透明感から企業の採用人数の大幅な減少、さらには採用人数に固守しない厳選採用等により、有為な人材として社会に出て行くべき学生が希望の進路を実現するにおいて困難な状況が生じており、学生からはもちろんのこと、企業側からもさらなる「就職力の強化」が求められている。また、とりわけ法学部においては、法曹界や公務員を志望する学生のために正課のカリキュラム等でも対応してきたが、就職環境の悪化による影響を強く受け、公務員については志望者が増加し採用試験の倍率激化をもたらししている。また、景気の悪化は経済的な問題による法科大学院進学の高難度をもたらし、やむを得ず進路選択を変更せざるを得ない学生も相当数出ている。従って、彼らへの就職支援強化も大きな課題となっている。

本取組は、これまで本学が実施してきた就職支援策を再点検し、現在の就職環境を踏まえて、学生個々のニーズに対応した就職支援体制を構築することを目指したものである。

本学には、北海道から沖縄までほぼ全ての都道府県から学生を迎えており、当然ながらUターン就職希望者も多数存在している。彼らの就職活動の場も主にその出身地になるため、その間の通学は困難になる。本学は郊外に立地し最寄り駅からスクールバスでの通学を基本としているため、就職相談の件数が比較的多い課外時間等は時間的な制約を受けやすい。また、就職課が主催する就職ガイダンスは平日の実施であり、正課授業との重なりのため十分に参加できないという声もこれまで寄せられてきた。そのため、今回の取組では、時間的、距離的な制約を克服できるようインターネット、Eメール、携帯電話等を有効に活用し、就職に関する情報システムのより一層の充実を図るとともに、就職活動の様々な場面で生じるであろう個々の問題や不安を解消していくこととした。

第一に、曜日や平日、休日を問わずに相談できるようキャリアカウンセラーを増配置し、対面だけでなく携帯電話、Eメールでも対応できるようにする。また、

就職ガイダンスのダイジェスト版を動画媒体として制作し、コンテンツ化してWebに掲載することにより、学生がいつでも、どこでも就職活動の各ステージで必要に応じてインターネットを介して参考ができるようにする。さらには、就職筆記試験（Webテスト）対策講座の開設や各種の就職講座や特別講座（合宿）等を通して進路・就職支援をさらに強化するものである。

3. 本取組の趣旨・目的・達成目標

(1) 取組の趣旨・目的

深刻な景気悪化と景気回復の不透明な状況とそれに伴う就職環境の困難な状況下において、学生が希望する進路・就職を実現するためには、これまで以上に求人情報、企業情報の迅速な提供と、就職活動の各ステージで直面する様々な問題を想定して、それに対応できる教材を用意しておくことが必要である。それらの教材を活用することで、学生が自主的に、積極的に、そして適切に、様々な問題に対応できる能力を高めることが重要である。

本取組は、取組の概要に記した各種事業を実施することを通して、キャリア教育及び就職活動に関する教育力を高めることを主要な目的とする。

本学では小規模大学の利点を生かし、これまでも個別対応のサポートを重視してきており、本取組の趣旨もこれを踏襲している。単にIT技術を導入し、時間と距離の制約を超えた就職支援の実現を目指すのではなく、一般的、画一的な就職支援の部分を効率化することで、学生一人ひとりと向き合う時間をより充実させ、きめ細やかな支援を目指していることを強調したい。

(2) 達成目標

本取組では、深刻な経済不況の下において、学生が希望する進路を実現するに当たり、様々な困難が生じている状況を受け、学生の個々のニーズに応じた的確なサポートと情報提供ができる支援体制の構築を図り、就職情報を迅速に提供し、就職活動の各ステージで直面する問題に学生が元気よく、積極的に、適切に対応できる能力の養成に資することを目標としているが、一方では、学士課程教育における正課のキャリア教育の成果をより高める役割も担うものである。従って、単に就職するためのスキルやノウハウの習得ではなく、社会人として生涯にわたって形成すべきキャリアやそれを身につける力の育成に向けたキャリア教育力の向上をも目指している。そのために、IT技術を

駆使したシステムを構築する一方で、人的資源を投入しマン・ツー・マンによる双方向の対話を中心とするキャリアサポートを重視している。

これらを通して、学生個人々が広い企業観を有し、厳しい就職環境の中でも、就職活動に自主的に、積極的に取り組める元気な学生を多数生みだし、もってその希望進路の実現とともに、大学としても就職率の維持・向上を図ることを目標とする。

4. 本取組の具体的内容・実施体制

(1) 取組の具体的内容

本取組の具体的内容は、以下のとおりである。

(i) 就職ガイダンスのダイジェスト版を動画として制作し、Web学習システム用にコンテンツ化し、I-Navi（Web学習システム）に掲載した。学生はI-Naviを使って「就活ワンポイントレッスン動画版」を学習することにより、就職ガイダンスの核心部分の理解を深め、就職活動の様々なステージで生じるであろう課題や疑問点を場所と時間の制約無く解決することを図るものである。今回制作した「就活ワンポイントレッスン動画版」は、本学独自の企画であり、また、就職活動を終えた4年生の全面的な協力を得てできたものである。

「就活ワンポイントレッスン動画版」の主な内容は、以下のとおり、6編12章で構成されている。その時間は、1編から5編までは各編約5分、6編は約10分、合計約40分となっている。

- Lesson. 1 自己PR編「自己PRのネタ探し」
自己PR編「自己PRの作り方」
- Lesson. 2 志望動機編「志望動機の考え方」
志望動機編「志望動機の作り方」
- Lesson. 3 履歴書編「履歴書の書き方」
- Lesson. 4 面接編「面接の身だしなみ」
面接編「面接のマナー」
面接編「面接実演」
- Lesson. 5 グループディスカッション編
「グループディスカッションとは？」
グループディスカッション編
「合格のポイント」
- Lesson. 6 選考試験に落ちたとき…編
「初期選考」
選考試験に落ちたとき…編
「中間から後半の面接」

なお、I-Navi (Web学習システム) 上で見た目次画面は、以下のとおりである。



図1 「就職ワンポイントレッスン動画版」目次

また、I-Navi (Web学習システム) 上で見た「Lesson 5. グループディスカッション編」の1シーンは、以下のとおりである。



図2 グループディスカッション編の1シーン

(ii) 就職筆記試験 (Webテスト) 対策講座を開講する。企業は学生の基礎学力を筆記試験で判断する。そして、実施コスト等の問題からWebテストを採用する企業が急激に増えている。一定の基礎学力を有している学生でも、ペーパーテストとは違うWebテストの特徴、雰囲気慣れていないと、本来の実力を発揮できないことがある。就職筆記試験 (Webテスト) 対策講座は、ほとんどの就職筆記試験に対応した講座で、また、客観的な実力を把握できる機能も有しているので、学生個人はもとより、教員、就職課においても、個々の学生の学習進捗度を知ることができる。全

国的なランキング機能もあり、意欲的に学習を取り組ませる工夫も施されている。

キャリアゼミや専門ゼミ、そして就職ガイダンス等を通じて広く受講生を募集し、また、それぞれの場で、その利活用を促進することで、学生自らが自身の適性把握と基礎学力の向上、ひいては「就職力の強化」を図り、積極的に就職活動を展開していけるようにする。

(iii) キャリアカウンセラーを増員し、曜日問わず配置するようにし、不安や相談を抱えた学生の個別ニーズにいつでも迅速に対応できるようにし、不況のため困難な状況におかれた学生の就職活動をより一層支援する。また、昼休みという学生が参加しやすい時間を活用して、学生が希望するテーマを設定しミニ就職講座を開催するなど、学生の要望に沿った企画を実施することで、事前に不安や悩みを解消し、十分な準備を整えたうえで就職活動を展開していけるように支援する。

(iv) 厳しい雇用情勢などを踏まえ、土曜・日曜・祝日及び休業中においても、早急に対処しなければならない就職活動上の疑問や相談が生じることが考えられる。そのため、携帯電話とEメールを活用して、土曜・日曜・祝日及び休業期間中を専門に担当するキャリアカウンセラーを配置し、ほぼいつでも対応できる体制を講じることで、学生に安心感を与え、サポートの強化を図る。

学生が気軽に相談できるよう、以下のような名刺大の周知チラシを作成し、配付している。

経法大 就活ホットライン

☎ 090-●●●●-●●●●
電話受付時間：休校日13:00~20:00

✉ keiho-hotline@●●●●.ne.jp
メール受付時間：休校日15:00~0:00

※皆さんの相談内容が外部に漏れることはありません。

図3 周知チラシ (表)

「就職課で相談したいけど、今日は学校が休み…」そんな経法大学生専用回線を開設しました。休日の相談窓口としてお気軽にご利用ください。電話とメールなので気にせず相談できます。就職課の就職アドバイザー●●●が担当します。

皆さんにお願い

- 相談の際、初めに「学部・名前・学籍番号」をお伝えください。
- 電話をお掛けの際は発信者番号通知の設定をお願いします。
- 状況により即時に対応できない恐れがありますがご了承ください。
- 平日のご相談は就職課にご連絡ください。

図4 周知チラシ (裏)

(v) I-Navi (Web学習システム) を活用した「就活ワンポイントレッスン動画版」の学習、就職筆記試験 (Webテスト) 対策講座受講、求人情報・企業情報システムの利活用促進及びWebを活用した情報収集の利便を図るため、学生専用PCの更新を実施する。また、各種情報を収集するためにはPCが必要不可欠となっていることから、学外での使用を想定して学生貸出専用のノートPCを購入する。一斉休業期間中に就職活動を展開する学生の需要を見込んでいる。

12月及び2月又は3月に特別講座 (合宿) を実施する。キャリア教育の成果及び不足点を確認させるとともに以降の就職活動における就職力の強化を図る。

(2) 取組の実施体制

本年度は、厳しい就職環境を踏まえて、就職支援強化のため、学長補佐が学生就職指導部長を兼任することとした。その下に学生就職支援事項の審議・決定機関である就職委員会 (各学部長・教養部長及び各学部・教養部選出の委員で構成) が組織されており、これまで以上の教職員協同の全学的なキャリア支援体制の構築を目指している。

本取組も就職委員会での具体的な審議、決定に基づき、部署、教員・職員の枠を超えて取り組むことになり、全学的な取組として実施することが可能な体制となっている。

5. 本取組の評価体制・評価方法

(1) 取組の評価体制・評価方法

評価体制としては、学生就職指導部長、事務局長、学生部長、各学部長・教養部長、各学部・教養部選出委員から構成される就職委員会を中心に、本取組の内容や方法、その効果等について、状況報告を受けながら、その都度評価を行う。

また、Web等を活用して、より広く学生や教職員、そして、担当キャリアカウンセラーからも適宜、意見を聴取し、開かれた評価体制を構築する。

さらに評価方法としては、学生就職指導部において、キャリアカウンセラーの相談件数・相談内容、就職筆記試験 (Webテスト) 対策講座受講状況、「就活ワンポイントレッスン動画版」の学習状況、学生の就職活動状況をリアルタイムで把握し、その状況について、適宜、就職委員会に報告し、意見を求める形式で実施する。また、必要に応じて迅速に運営上の改善についても検討する。

(2) 達成目標に対する達成度についての指標

アウト・プットに関する指標としては、①「就活ワンポイントレッスン動画版」の学習状況、②就職筆記試験 (Webテスト) 対策講座の受講状況、③キャリアカウンセラーの相談件数・相談内容、④「就活ホットライン」の利用状況、⑤ノートPCの貸出状況等を想定する。

アウト・カムに関する指標としては、学生の就職活動状況、就職筆記試験 (Webテスト) の得点、就職内定件数、各種事業に対する学生の感想、担当キャリアカウンセラーからの意見等を想定している。

景気の早期回復が見込めない状況にあっても、キャリア教育及び就職活動に関する教育力を高め、就職希望者に占める就職者の割合を維持・向上を目指す。

6. 本取組の実施計画等

(1) 実施計画

本取組は、申請するに当たり、その企画過程段階から、多くの関係者 (学内の情報システム部門である情報科学センターの責任者、キャリアカウンセラー派遣会社、そして本学のWeb学習システムのコンテンツ化支援を行っている企業等) からの意見や事業提案を受け、実施計画を策定した。

内定を得ていない4年生と就職活動を直前に控えた3年生を想定して、「就活ワンポイントレッスン動画版」、就職筆記試験 (Webテスト) 対策講座、PC更新とノートPC購入、そして、キャリアカウンセラーの増配置のすべてを秋学期が始まる10月に利用できるように計画し、実行した。

また、本取組の効果を実証するため、各事業毎の学生の利活用度や当該学生の希望する進路実現に向けての進捗状況の把握、キャリアカウンセラーの対応について、それぞれの確になされているかの検証を行いつつ、具体的な就職率等の向上と目標の達成を目指す。

(2) 財政支援期間終了後の展開

就職委員会によって、本取組を含めたすべての学生支援業務についての点検評価を受けた後、さらに継続の必要性等について検討を行っていくこととする。

また、本取組の事業は、内定を得ていない4年生はもちろんのこと、これから就職活動を展開していく3年生をも対象とする事業である点から、財政支援期間終了後も、その効果を継承・発展していくことが可能な取組であり、この取組による経験の蓄積により、一層の教育力の強化を実現していきたい。